

入野小学校 校長室だより

2016. 1. 15(金) No. 33 文責：芝

大崎博澄さんのこと

1週間後の1月22日(金)は参観日です。その時の講演をお願いした大崎博澄さんのことを、少しご紹介したいと思います。

大崎博澄さんは「たんぼぼ教育研究所」を主宰し、不登校などの教育相談や、様々な悩みに対するカウンセリングをされています。たぶん、お名前に聞き覚えのある方もいらっしゃると思いますが、橋本大二郎さんが高知県知事の時に、高知県教育長として長くご活躍でした。また、お若い頃は、県の職員として幡多でも勤務されていますので、お知り合いの方も多いうかがっています。

高知県教育長の経験者という、エリート的で、勢いよく「こうあるべき」的な話をする人を想像されるかもしれませんが、それとは全く逆で、大崎さんは、しつとりとした話し方で、ご自身の弱さや挫折・屈折の経験、時にご息が不登校になった時の思いなど、豊富なご経験に基づいた、やさしい話をされます。大崎さん自身が厳しい現実の生活を悩みながら生き、そうしながらも「様々な悩みを抱えた子どもたちにどう向き合うか」というテーマに、真摯に向き合っておられる、私はそんなイメージを持っています。

大崎さんの書かれた本に、こんな部分があります。

ただ、ひっそりと交わることのできる人と出会う。折に触れてそういう人々のことを思い出しながら暮らす。それだけの、つつましい人間のつながりを大切にしたい。そういう人間的つながりだけが、希望の少ないぼく達の時代に、ぼくが持つことのできる希望のすべ

てです。そういうひそやかな、心細くちぎれそうな人間的つながりだけが、ぼく達の生き方を揺るがし、ひいてはこの不条理な世の中を変えて行く、かけらほどの可能性のすべてでもあると思っています。

このような思いで生きておられる大崎さんは、子どもが健やかに育つために、家庭、学校、地域社会が果たすべき役割を、どのように見ているのか、22日(金)は大崎博澄さんのお話に耳を傾けてみませんか。

お待ちしております。

盲導犬がビックリするから

3年生の国語の教科書に「もうどう犬の訓練」という話を取り上げられています。それに合わせて、3年生は実際に盲導犬と生活している方を招いて学習をしました。

盲導犬についてのお話だけでなく、失明したときの思い、その後の気持ちの変化なども語っていただきましたので、子どもたちの生きる上での考え方にもプラスになる学習だったと思います。

子どもたちは「盲導犬が驚くから静かに」という指示にも頑張りました。後半、犬のそばに行ってもいい時間帯になって、場所の取り合いでケンカになったそうですが、教室内では我慢して、廊下に出てから大きな声で泣いたとか…。何とも愛おしい姿です。

